



電話の24時間

朝と昼の作業員への電話連絡に加え、ひっきりなしに電話が入ります。除雪作業を請け負う各業者や役所からの連絡、さらに市民からの問合せや

すべてを支えるセンター長

除雪センター長（松之山地区除排雪作業共同企業体長）の滝沢正秀さん（天水越・55歳／株高橋組）は、除雪作業員の束ね役であるとともに、松之山地域全体の円滑な除雪作業を、昼夜を問わない対応で支えています。



密着！ 除雪オペレーターの一日

雪の国のおはなし

協働のまちづくりモデル事業

その3

雪が降った朝、通勤通学の時間までに道がきれいに除雪されています。それを支える人たちは、何時から作業し、どんな一日を過ごしているのでしょうか。今回は、松之山地区除排雪作業共同企業体の皆さんに協力してもらい、除雪オペレーター（除雪機械の作業員）に密着取材しました。

苦情などで、その後の対応も加わります。緊急の場合は休日にも電話が入るので、「昼も夜も電話に追い立てられる（笑）」毎日。冬期間は、気を抜けるときがありません。

【豆知識】何cm降ったら出勤？

冬期を通じて10cm以上で出勤と決められています。朝は3時、午後のはじめは11時の時点で判断します。判断は降雪量だけでなく、県の降雪予報などを参考に、最終的にセンター長が経験に基づき決めます。基準時に降りにドカッと降ることもあるからです。

取材を終えて

除雪オペレーターもセンター長も、市民の交通確保のため、早朝から深夜まで働いています。取材してそのことが分かったと、今までは違った気持ちで通行できるようになりました。これまで、「ブルが来るのが遅い」なんて思ったこともありましたが、皆さんの苦勞を知り、ホントに感謝、ありがたい気持ちになりました。

問合せ 総合政策課協働のまちづくり推進室 ☎7571-3693

一日の始まりは午前3時

株高橋組の除雪オペレーター村山末男さん（坪野・50歳）の朝は早く、午前3時過ぎには家を出て除雪センターへ向かいます。到着するとすぐに除雪機の暖機運転を行い、その間にオペレーター全員で打合せです。15分後、それぞれの除雪機に乗車。村山さんは乗り慣れたタイヤドーザに乗り込みます。

誇りと優しさが除雪の心

村山さんの受け持ちは主に上鰻池と中尾など数集落で、移動も含め約30kmの区間。除雪作業は一見豪快な光景に見えます。でも、作業中は左手と足でタイヤドーザの運転を行い、右手は3つのレバーを操作し、常に変化していく雪質と路面状況に合わせて排土板を微調整しなければなりません。とても繊細な作業です。

1集落の作業時間は約2時間。移動を含めて5時間休みなく、この細かい作業が続きます。除雪作業は市民の通勤・通学時間に間に合わせなければならず、限られた時間の中で効率的に行われる作業はまさに職人技です。そのうえで村山さんは、なるべく各住宅の玄関近くに雪のかたまりが

雪のこくちXNo.3

高校生と協働 新しい雪の国へ

高校生オペレーター 養成講座？

お、将来の除雪オペレーターを養成するための高校生研修か？ いえいえ、実はこれは、高校生による除雪現場取材風景です。雪の国のおはなしは、さまざまな切り口で雪国生活を考えていくシリーズですが、編集委員会メンバーは、平均年齢40うん歳。「これだと、大人の目線に偏ってしまふ」「もつと若い人の目線が必要」という話になりました。

除雪センターを突撃取材

で、白羽の矢が立ったのが、全国高等学校総合文化祭新聞部門に5年連続参加の実績がある、県立松代高等学校の新聞委員会。「いつしよに取材しませんか」



とお誘いしたところ、「ぜひ」ということでジョイントすることになりました。さっそく、部活動の一環として除雪センター長を協働取材。「どうしてこの仕事を選んだんですか？」「ほかにやれることがなかったんだよ」（笑）。というような高校生の取材ならではのやりとりも出て、大人たちもつこり、そして納得。これから、高校生も取材陣として活躍します。ご期待ください。



残らないように、細心の注意を払って作業していました。「やるからには、地域の皆さんから喜んでもらいたいですからね」。笑顔で

1日17時間作業も

この日（1月8日金）は雪が少なく、8時過ぎには作業が終わりでしたが、雪が多いと10時を過ぎることもありまふ。その場合は、除雪センターに戻って遅い朝食を済ませるとすぐまた除雪作業に戻り、1日の作業時間が15時間になるときもあるそうです。ひと冬で80〜100日間タイヤドーザに乗ることもあります。この日村山さんは、朝食と休憩を済ませると、通常業務のある小谷の工事現場へと向かいました。なお、1月13日（水）から14日（木）にかけてドカ雪が降ったときは、休憩を挟んで17時間以上除雪作業が続いたそうです。